

# Spread Router シリーズ

## ウェブユーザインターフェース操作マニュアル

---

Ver. 1.0.2





# 目次

はじめに.....	4
<b>第1章 概要</b> .....	6
1.1. 基本画面構成.....	7
1.2. WebUI へのアクセス.....	8
<b>第2章 インターフェース</b> .....	9
2.1. インターフェース設定.....	10
<b>第3章 3G通信モジュール</b> .....	14
3.1. 3G通信モジュール状態.....	15
3.2. 通信モジュール設定.....	16
<b>第4章 フィルタ</b> .....	19
4.1. フィルタ設定.....	20
<b>第5章 バーチャルサーバ</b> .....	26
5.1. バーチャルサーバ設定.....	27
<b>第6章 シリアル変換</b> .....	32
6.1. シリアル変換設定.....	33
<b>第7章 DHCP</b> .....	35
7.1. DHCP 設定.....	36
<b>第8章 NTP</b> .....	37
8.1. NTP 設定.....	38
<b>第8章 ダイナミック DNS</b> .....	39
9.1. ダイナミック DNS 設定.....	40
<b>第10章 ログ</b> .....	41
10.1. ログ表示.....	42
<b>第11章 ファームアップデート</b> .....	43
11.1. ファームアップデート.....	44
<b>第12章 停止・再起動</b> .....	47
12.1. 停止・再起動設定.....	48
<b>第13章 日付・時刻</b> .....	49
13.1. 日付・時刻設定.....	50
<b>第14章 本装置設定</b> .....	51
14.1. 本装置設定.....	52

## はじめに

# はじめに

このたびは本製品をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書には、本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。ご使用前に本書をよくお読みになり、正しくお使いいただけますようお願い致します。

特に、本製品に添付されている「安全にお使いいただくために」をよく読み、理解されたうえで本製品をご使用ください。また、本書は本製品の使用中、いつでも参照できるように大切に保管してください。

### ◆ ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転用、転載しないようお願いいたします。
2. 本書の内容および製品仕様、外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
3. 本書の作成にあたっては万全を期しておりますが、本書の内容の誤りや省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 製品の保証に関する規定については製品添付の製品保証書をご覧ください。
5. 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用することは一切許可しておりません。

### ◆ セキュリティの確保について

パスワードを設定しない、もしくはデフォルトパスワードを使用する場合、ネットワーク上の誰からでも本装置の設定を行うことができます。

**セキュリティの面からは非常に危険なため、ユニークなパスワードを設定することを強く推奨します。**

◆ **最新情報の入手について**

弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア・マニュアル・製品情報を掲載しています。

下記の SpreadRouter 専用ホームページから、該当する製品名をクリックしてください。

**SpreadRouter 専用サイト**

<http://m2m-nstg.jimdo.com/>

また開発者向け情報も掲載しておりますので、是非ご覧ください。

**開発者向け情報提供サイト SpreadRouter' Wiki**

<http://180.62.148.246/index.php>

◆ **商標について**

- 「SpreadRouter」はエヌエスティ・グローバリスト株式会社の登録商標です。
- その他文中の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

# 第 1 章

---

---

概要

◆ 基本画面構成



画面は、左のメニュー部と右の設定画面部に分かれます。

選択したメニューは色が付きます。

◆ 動作環境

本WebUIは、JavaScriptを使用しています。ご利用のウェブブラウザにおいて、JavaScript機能を有効にして下さい。

動作確認に使用した OS とウェブブラウザは以下の通りです。

Windows 7: Internet Explorer 11

Windows 7: Chrome 38

## 1.2. WebUI へのアクセス

### ◆ WebUI へのアクセス

パソコンと SpreadRouter の Ether0 または Ether1 ポートに LAN ケーブルを接続し、パソコンのブラウザを起動します。SpreadRouter には DHCP サーバが起動しているため、パソコン側のネットワーク設定は「IP アドレスを自動的に取得する」を選択しておくで簡単に設定することが可能です。

ブラウザのアドレスバーに <http://192.168.1.1/> を入力しアクセスしてください。

なお、SpreadRouter シリーズのイーサネットポート初期状態の IP アドレスは以下の通りです。

インターフェース名	IP アドレス
ETHER 0 (eth0)	192.168.1.1
ETHER 1 (eth1)	192.168.1.1

アクセスするとログイン画面が表示されます。(表示される画面は、お使いのブラウザによって異なります)



Microsoft Internet Explorer の場合



Google Chrome の場合

初期アカウントは以下の通りです。

アカウント名	パスワード
admin	admin



# 第2章

---

---

インターフェース

## 2.1. インターフェース設定

### 第2章 インターフェース

## 2.1 インターフェース設定

- ◆ インターフェース設定は、SpreadRouter のイーサネットポートの設定を行います。イーサネットポートは、ETHER0/ETHER1 の 2 ポートあります。設定は大きく分けて 2 つあり、SpreadRouter のイーサネットポートの IP アドレスを 2 ポート共、同じ IP アドレスに割り当てる **ブリッジインターフェース設定**。もう一つはイーサネットポート個別に IP アドレスを割り当てる **個別インターフェース設定** があります。

※出荷状態はブリッジインターフェース設定です。

	ブリッジインターフェース	個別インターフェース
IP アドレス	同じ IP アドレスを割り当てる	ETHER0/ETHER1 にそれぞれ別の IP アドレスを割り当てる
主な使用イメージ	家庭用ブロードバンドルータの LAN ポートの様な使用イメージ。LAN 側機器を複数接続したい場合	片側を WAN ポート、片側を LAN ポートとして使用したり、フィルタリング設定を細かく設定したい場合
WAN ポート/LAN ポートとして使用	×	○

- ◆ ブリッジインターフェース設定

- ブリッジインターフェース (br0)

ブリッジ機能を利用する際に生成されるブリッジインターフェースの IP アドレスを設定します。

IP アドレス取得方法を「DHCP から取得」にした場合は IP アドレス、ネットマスクは空欄にしますが、ブリッジインターフェースを通常使用する際は、手動設定を設定してください。

出荷状態は「手動設定」で IP アドレスは 192.168.1.1 が設定されています。

ブリッジインターフェース(br0)

IPアドレス取得方法  手動設定  DHCPから取得

IP アドレス

ネットマスク

※「ブリッジインターフェース (br0)」は「共通インターフェース設定」でブリッジ「使用する」を選択した場合に表示されます。

## 2.1 インターフェース設定

◆ 個別インターフェース設定

- イーサネットインターフェース(ETHER0/eth0) / イーサネットインターフェース(ETHER1/eth1)の IP アドレスを設定します。

IP アドレス取得方法を「DHCP から取得」にした場合は IP アドレス、ネットマスクは空欄にします。

イーサネットインターフェース(ETHER0/eth0)	
IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> 手動設定 <input type="radio"/> DHCPから取得
IP アドレス	<input type="text" value="IP アドレスを入力"/>
ネットマスク	<input type="text" value="ネットマスクを入力"/>

イーサネットインターフェース(ETHER1/eth1)	
IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> 手動設定 <input type="radio"/> DHCPから取得
IP アドレス	<input type="text" value="IP アドレスを入力"/>
ネットマスク	<input type="text" value="ネットマスクを入力"/>

※出荷状態ではブリッジインターフェース設定が有効になっています。3G を使用せず、イーサネットポートを片側 WAN ポート、片側 LAN ポートとして使用したい場合は、〇〇を参照ください。

### 2.1 インターフェース設定

#### ◆ 共通インターフェース設定

デフォルトゲートウェイ、DNS サーバを設定します。ブリッジ「使用する」を選択すると、イーサネットインターフェース (ETHER0/eth0) / イーサネットインターフェース (ETHER1/eth1) をブリッジし、ブリッジインターフェース (br0) を作成します。これにより2つのイーサネットポートを2ポートのスウィッチングハブのように利用することができます。

出荷状態はブリッジインターフェースを使用するになっています。

#### 共通インターフェース設定

デフォルトゲートウェイ	<input type="text" value="デフォルトゲートウェイを入力"/>
プライマリ DNS	<input type="text" value="プライマリ DNSを入力"/>
セカンダリ DNS	<input type="text" value="セカンダリ DNSを入力"/>
ブリッジ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない

3G を使用する際は、デフォルトゲートウェイ、プライマリ DNS、セカンダリ DNS 設定は空欄で使用する事が可能です。(回線契約内容によっては設定が必要な場合がございます)

#### <注意1>

IP アドレスを変更した場合、即時に反映されますので、WebUI でアクセスしているインターフェースの IP アドレスを変更した場合は「設定に失敗しました」と表示されます。

WebUI での設定を続けるには、パソコンのネットワーク設定等を確認し、変更後の IP アドレスに対して再度 WebUI 設定画面への接続を行ってください。

#### <注意2>

「設定」ボタンを押下しても本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

## 2.1 インターフェース設定

★設定メモ：

3G を使用せず、イーサネットポートを片側 WAN ポート、片側 LAN ポートとして使用したい場合

<設定例>

ETHER0 を WAN ポート (SpreadRouter IP 手動設定で 192.168.10.12、デフォルトゲートウェイ 192.168.10.1 の場合)

ETHER1 を LAN ポート (SpreadRouter IP 手動設定で 192.168.1.1、LAN 側ネットワークに対し DHCP サーバ有効)

(只今、準備中)

# 第 3 章

---

---

3 G通信モジュール

### 3.1. 3G通信モジュール状態

## 第3章 3G通信モジュール

### 3.1 3G通信モジュール状態

#### ◆ 状態表示

現在使用中の接続状態を表示します。

接続状態は、接続中であれば「接続中」、接続されていなければ「未接続」と表示します。

アンテナレベルは、「最高」、「高」、「中」、「低」で表示します。

3G通信モジュール設定	
状態表示	
3G接続状態	接続中
アンテナレベル	最高

## 3.2 通信モジュール設定

## ◆ 接続設定

通信モジュールの情報を設定します。

入力完了後、「設定」ボタンをクリックして設定内容を更新させます。

接続設定	
回線接続	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
APN	<input type="text" value="APNを入力"/>
ユーザID	<input type="text" value="ユーザIDを入力"/>
パスワード	<input type="text" value="パスワードを入力"/>
常時接続	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
オンデマンド接続	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
認証方式	<input type="radio"/> PAP <input checked="" type="radio"/> CHAP <input type="radio"/> 認証しない
デフォルトルート	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
PDPタイプ	<input checked="" type="radio"/> IP <input type="radio"/> PPP
無通信タイムアウト(秒)	<input type="text" value="0"/>
再接続待機時間(秒)	<input type="text" value="5"/>
切断時リセット	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
定期強制切断	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
強制切断時刻	<input type="text" value="03:00"/>
異常時リセット	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
リセット後待ち時間(秒)	<input type="text" value="30"/>
<input type="button" value="設定"/>	



## 3.2 通信モジュール設定

## 接続設定

項目	設定	説明	デフォルト
回線接続	する/しない	3G回線接続を行う場合は、「する」にチェックを入れ、以降の設定を入力します。	しない
APN	APN名を入力	契約しているSIMカードのAPN名を設定します。	
ユーザID	ユーザIDを入力	契約しているSIMカードのユーザIDを設定します。	
パスワード	パスワードを入力	契約しているSIMカードのパスワードを設定します。	
常時接続	する/しない	3Gが切断されても自動再接続を行うかの選択をします。	する
オンデマンド接続	する/しない	3Gが切断された場合、LAN側から外部にパケットが出るタイミングで3G接続を行う場合は「する」を設定します。常時接続有効時はすぐに回線接続されます。	しない
認証方式	PAP/CHAP/認証しない	契約しているSIMカードの認証方式を設定します。	CHAP
デフォルトルート	使用する/使用しない	通常使用時は「使用する」を選択します。	使用する
PDPタイプ	IP/PPP	契約しているSIMカードのPDPタイプを設定します。	IP
無通信タイムアウト (秒)	0 ~ 300	3Gが一定時間無通信の場合、回線切断する時間を設定します。タイムアウトの時間は0~300(秒)で設定します。 常時接続の場合は、0を設定します。	0
再接続待機時間 (秒)	0 ~ 300	3Gが再接続するまでの待機時間を0~300(秒)で設定します。	5
切断時リセット	使用する/使用しない	回線切断時に通信モジュールのリセットを行うか選択します。	使用しない
定期強制切断	使用する/使用しない	定期的に3G回線を強制切断するか選択します。	使用しない
強制切断時刻(時)	0:00 ~ 23:00	定期強制切断を使用時の強制切断時刻を選択します。	3:00
異常時リセット	使用する/使用しない	通信モジュール異常時にリセットを行うかの選択をします。	使用する
リセット後待ち時間 (秒)	0 ~ 300	切断時および異常時に行うリセット後の待ち時間を0~300(秒)で設定します。	30

※APN、ユーザID、パスワード、認証方式、PDPタイプは、使用するSIMの情報に合わせた設定をしてください。

<注意1>

3G 設定を変更し、「設定」ボタンを押下した際、即時反映される項目と再起動後に有効になるものがございます。  
既に3G 設定済のSIMカードを別のSIMカードに変更した場合、即時反映できない場合があります。  
各設定を反映させるには、再起動を行ってください。

<注意2>

「設定」ボタンを押下しても本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。  
設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

# 第4章

---

---

フィルタ

#### 4.1. フィルタ設定

### 第4章 フィルタ

## 4.1 フィルタ設定

#### ◆ ゾーン

インターフェースが属するゾーンを設定します。

ゾーンは trusted / internal / external から選択します。

ゾーン					
<b>ETHER0</b> [eth0]	trusted	▼	<b>ETHER1</b> [eth1]	trusted	▼
<b>ブリッジ</b> [br0]	trusted	▼	<b>3G</b> [ppp0]	external	▼

※出荷状態のフィルタゾーン設定

3G は外向きのネットワークに設定するため、「external」を選択します。

ブリッジ/ETHER0/ETHER1 は全て内向きのネットワークに設定するため、「trusted」または「internal」を選択します。

主な用途としては、ETHER0 または ETHER1 を WAN ポートとして使用する場合、「trusted」を「external」に設定変更します。

## 4.1 フィルタ設定

◆ フィルタ

ゾーンを選択して、IP マスカレード、許可するサービス、フィルタルールを設定を行います。

項目	設定	主な設定内容
ゾーン	external/internal	設定するゾーンを選択します。(主に external)
IP マスカレード	使用する/使用しない	通常 external 選択時は IP マスカレード使用するを選択します。
サービス	特定サービスを選択	選択された内向きのコネクションのみ Accept します。
ルール	プロトコル、ターゲット、アドレス、ポートを設定	サービスで選択できないユーザー指定のルールを設定します。 主な用途は外部へ WebUI アクセスの許可、外部からのシリアル変換サーバ許可等。

## 4.1 フィルタ設定

デフォルトでは各ゾーンは以下のように設定されています。

ゾーン名	インターフェース	サービス	マスカレード	備考
trusted	ブリッジ (br0) ETHER0 (eth0) ETHER1 (eth1)			全ての内向きパケットを受 入 (Accept) ※設定変更不可
internal	なし	dhcpv6-client, ipp-client, mdns, samba-client, ssh	使用しない	選択された内向きのコネク ションのみ Accept (内部ネットワーク用)
external	3G (ppp0)	ssh	使用する	選択された内向きのコネク ションのみ Accept (IP Masquerade が有効な 外部ネットワーク)

※trusted の設定を変更することはできません。eth0、eth1、br0 にフィルタを設定したい場合はゾーンを internal に変更してフィルタを設定してください。

## 4.1 フィルタ設定

➤ サービスの変更

「変更」ボタンをクリックすると以下のようなサービスの一覧が表示されますので通信を許可したいサービスをチェックし「OK」をクリックします。

サービスの追加

サービス

- AMANDA-CLIENT  BACULA
- BACULA-CLIENT  DHCP  DHCPV6
- DHCPV6-CLIENT  DNS  FTP
- HIGH-AVAILABILITY  HTTP  HTTPS
- IMAPS  IPP  IPP-CLIENT  IPSEC
- KERBEROS  KPASSWD  LDAP
- LDAPS  LIBVIRT  LIBVIRT-TLS
- MDNS  MOUNTD  MS-WBT
- MYSQL  NFS  NTP  OPENVPN
- PMCD  PMPROXY  PMWEBAPI
- PMWEBAPIS  POP3S  POSTGRESQL
- PROXY-DHCP  RADIUS  RPC-BIND
- SAMBA  SAMBA-CLIENT  SMTP
- SSH  TELNET  TFTP
- TFTP-CLIENT  TRANSMISSION-CLIENT
- VNC-SERVER  WBEM-HTTPS

許可したいサービスを選択

OK Cancel

## 4.1 フィルタ設定

➤ ルール追加

「+追加ボタン」を押すと以下のような画面がプロトコル、ポート等を入力する画面が表示されますので必要な項目を入力して「OK」をクリックします。

- プロトコル：「TCP」「UDP」から選択します。
- ターゲット：「accept」「drop」「reject」から選択します。
- 宛先アドレス：宛先アドレス指定する場合に設定します。
- 宛先ポート：宛先ポート番号（1～65535）を設定します。
- 送信元アドレス：送信元アドレスを指定する場合に設定します。

※設定可能な入力項目の組み合わせは以下の通りです。

プロトコル	ターゲット	宛先アドレス	宛先ポート	送信元アドレス
○	○	—	○	—
○	○	○	○	—
○	○	○	○	○

➤ ターゲットについて

accept：許可

drop：破棄 パケットを全て破棄します。

reject：拒絶 パケットを破棄した事を送信者に返答します。



## 4.1 フィルタ設定

プロトコル	ターゲット	宛先アドレス	宛先 ポート	送元アドレス	編集	削除
tcp	accept		50123			





➤ ルールの編集

設定済みのルールを編集するには編集ボタンをクリックします。設定内容が表示されますので変更した項目を変更して「OK」をクリックします。

➤ ルールの削除

設定済みのルールを削除するには削除ボタンをクリックします。

◆ 設定の反映

インターフェースのゾーン割当、サービス変更、ルールの追加等の設定を行った場合、これだけでは設定は反映されていません。最後に「**設定**」ボタンをクリックすることで設定が反映されます。

<注意1>

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUIの「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

# 第5章

---

---

バーチャルサーバ

## 5.1 バーチャルサーバ設定

◆ バーチャルサーバ

バーチャルサーバの設定追加、編集、削除を行います。

バーチャルサーバ

現在の設定

ゾーン

プロトコル	仮想アドレス	仮想ポート	実アドレス	実ポート	編集	削除
-------	--------	-------	-------	------	----	----

- ゾーン : 「external」「internal」から選択します。

※ゾーンは、「第4章 フィルタ」より設定したゾーンに合わせて選択します。

## 5.1 バーチャルサーバ設定

➤ バーチャルサーバのルール追加

「ゾーン」を選択した後に、「追加」をクリックすることにより、新規追加画面が表示されます。

入力が完了したら「OK」をクリックし、バーチャルサーバ画面より「設定」をクリックすることで、設定内容が反映されます。

新規追加

新規追加

ゾーン external

プロトコル

仮想サーバアドレス

仮想サーバポート

実サーバアドレス

実サーバポート

OK Cancel

- プロトコル : 「TCP」「UDP」より選択します。
- 仮想サーバアドレス : 公開するサーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 仮想サーバポート : 公開する仮想サーバのポート番号を 1～65535 までの値で入力します。
- 実サーバアドレス : 実サーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 実サーバポート : 実サーバのポート番号を 1～65535 までの値で入力します。

## 5.1 バーチャルサーバ設定

<注意>

※バーチャルサーバの設定で、入力できる項目の組み合わせは下記になります。

プロトコル	仮想サーバ アドレス	仮想サーバ ポート	実サーバ アドレス	実サーバ ポート
○		○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	-

## 5.1 バーチャルサーバ設定

➤ バーチャルサーバのルール編集

追加したルールの編集を行います。

編集するルールの「編集」マークをクリックすることにより、変更画面が表示されます。

編集したい項目を変更し、「OK」をクリックします。バーチャルサーバ画面より「設定」をクリックすることで、設定内容が反映されます。

※編集時は上段に「値に誤りがあります」と表示されることもありますが、そのまま編集可能です。

### 変更

変更	
ゾーン	external
プロトコル	TCP ▼
仮想サーバアドレス	アドレスを入力
仮想サーバポート	4000
実サーバアドレス	192.168.1.220
実サーバポート	54000

OK

Cancel

- プロトコル : 「TCP」「UDP」より選択します。
- 仮想サーバアドレス : 公開するサーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 仮想サーバポート : 公開する仮想サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。
- 実サーバアドレス : 実サーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 実サーバポート : 実サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。

## 5.1 バーチャルサーバ設定

### 削除

削除

ゾーン	external
プロトコル	TCP ▼
仮想サーバアドレス	アドレスを入力
仮想サーバポート	4000
実サーバアドレス	192.168.1.220
実サーバポート	54000

OK Cancel

## ➤ バーチャルサーバのルール削除

追加したルールの削除を行います。

削除するルールの「削除」マークをクリックすることにより、削除画面が表示されます。

削除するには「OK」をクリックします。バーチャルサーバ画面より「設定」をクリックすることで、設定内容が削除されます。

## &lt;注意1&gt;

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUIの「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

# 第 6 章

---

---

シリアル変換



## 6.1 シリアル変換設定

## ◆ シリアル変換設定

シリアルと TCP または UDP のプロトコル変換機能を利用する場合に設定します。

## ➤ シリアルポート (PORT 0/tty01)

シリアルポート (PORT 0/tty01) を利用する場合に設定します。

シリアルポート [PORT 0/tty01]

シリアル変換	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
動作モード	<input checked="" type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント
プロトコル	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
ローカルポート	<input type="text" value="54321"/>
ボーレート	<input type="text" value="115200"/> ▼
データ長	<input type="radio"/> 7ビット <input checked="" type="radio"/> 8ビット
パリティ	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1ビット <input type="radio"/> 2ビット
ハードウェアフロー制御	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
最小読み込みデータ(バイト)	<input type="text" value="10"/>
データ待ち受け時間(x0.1秒)	<input type="text" value="1"/>

- シリアル変換：シリアル変換機能を使用する場合は「使用する」を選択します。
- プロトコル：「TCP」「UDP」のどちらを利用するかを選択します。
- 動作モード：「サーバ」「クライアント」のどちらのモードで利用するかを選択します。

- ローカルポート：  
サーバ動作時の待ち受けポート（1～65535）、UDP クライアント時の送信元ポート（1～65535）を意味します。（TCP クライアント時はこの設定は無視されます。）  
※使用中ポートは設定できません。
- 接続先アドレス：  
クライアント動作時の接続先アドレスを設定します。（サーバ動作時はこの設定は無視されます。）
- 接続先ポート：  
クライアント動作時の接続先ポート（1～65535）を設定します。（サーバ動作時はこの設定は無視されます。）
- 最小読み込みデータ（バイト）：  
シリアルデータを読み込む際の最小データサイズを設定します。
- データ待ち受け時間(x0.1 秒)：  
最小読み込みデータに満たない場合、ここで設定した時間データを受信しなければデータを読み込みます。

※ボーレート/データ長/パリティ/ストップビット/ハードウェアフロー制御は接続するシリアル端末の仕様に合わせて設定します。

ボーレートに関する設定は下表のとおりです

	PORT0 (tty01)	CONSOLE (tty00)
SpreadRouter-F	1200bps～921600bps	1200bps～460800bps
SpreadRouter-R	1200bps～460800bps	1200bps～460800bps

➤ コンソールポート (CONSOLE/tty00)

コンソールポート (CONSOLE/tty00) を利用する場合に設定します。コンソールポートをシリアル変換機能で利用するには事前にブートローダより Linux コンソール出力を止めるための設定を行う必要があります。設定手順については弊社までお問い合わせください。設定項目は「シリアルポート (Port 0/tty01)」と同様です。

**(※CONSOLE ポートをシリアル変換機能した場合、電源投入時や再起動時に必ずブートメッセージが 115200bps で出力されます。このメッセージにより接続されている外部機器が異常動作にならないことをご確認の上、ご使用ください。)**

<注意 1 >

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

<注意 2 >

シリアル変換のサーバモードで 3G や WAN ポート側 (external ゾーン) からアクセスする場合は、設定したローカルポート番号をフィルタ設定で「Accept」してください。

# 第 7 章

---

---

DCHP

## 7.1. DHCP 設定

### 第7章 DHCP

## 7.1 DHCP 設定

#### ◆ DHCP 設定

DHCP サーバ機能を設定します。

割当 IP アドレスには、DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を指定します。

DHCP サーバ機能を行わないようにするには、DHCP 「無効にする」を選択します。

### DHCPサーバ設定

**DHCPサーバ**     有効にする     無効にする

**割当IPアドレス**        —

- DHCP サーバ：「有効にする」「無効にする」から選択します。
- 割当 IP アドレス：  
DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を IPv4 アドレス形式で入力します。

出荷時設定は、DHCP サーバは有効です。割当 IP アドレスは、192.168.1.100 ~ 192.168.1.200 です。

#### <注意1>

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

# 第 8 章

---

---

NTP

## 8.1 NTP 設定

### ◆ NTP 設定

NTP により時刻同期を行うかを設定します。

デフォルトではプライマリ NTP として「ntp.nict.jp」が設定されていますが、**出荷時設定では時刻同期を使用しない設定**です。

プライマリ NTP、セカンダリ NTP は IP アドレスまたは FQDN で設定可能です。

時刻同期を行うには、NTP「使用する」を選択します。

### NTP設定

**NTP時刻同期**     使用する     使用しない

**プライマリ NTP**   

**セカンダリ NTP**

### ■注意■

NTP時刻同期設定を行う場合、**パケット量が増加**します。

3G回線プランが**従量制プラン**の場合、**パケット超過**になることもございますのでご注意ください。

### <注意 1 >

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

尚、本体に内蔵されている時計用電池は通電無し状態で約 5 年間保持されます。

# 第 9 章

---

---

ダイナミック DNS

## 第9章 ダイナミック DNS

### 9.1 ダイナミック DNS 設定

弊社有料サービスのダイナミック DNS に対応した機能です。

通信モジュール接続時に、ダイナミック DNS サーバに対して登録を行います。

ダイナミック DNS サービスを使用するには別途契約が必要です。サービスご利用に関するお問い合わせは弊社サポート窓口までご連絡願います。

➤ 接続設定

ダイナミック DNS のユーザ ID とパスワードを設定します。

ダイナミックDNS設定(※別途、弊社有料サービスご契約が必要です)

接続設定

ダイナミックDNS  使用する  使用しない

ユーザID

パスワード

- ダイナミック DNS : 弊社提供ダイナミック DNS サービスの「使用する」「使用しない」を選択します。
- ユーザ ID : 弊社提供ダイナミック DNS サービスを契約した際のユーザ ID を入力します。
- パスワード : 弊社提供 DNS サービスを契約した際のパスワードを入力します。

<注意1>

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。



# 第 10 章

---

---

ログ

## 第10章 ログ

### 10.1 ログ表示

WebUI 上でログ (/var/log/syslog) を表示して確認することができます。

◆ ログ取得

「取得」によりログファイル (/var/log/syslog) をダウンロードすることができます。

システムログ

ログ表示

```
Oct 26 06:25:04 plum rsyslogd: [origin software="rsyslogd" swVersion="7.4.4" >
Oct 26 06:25:05 plum kernel: [11634.665823] aufs au_xino_trunc:267:mount[36
Oct 26 06:25:05 plum kernel: [11634.666035] aufs au_xino_trunc:299:mount[36
Oct 26 06:25:05 plum kernel: [11634.696969] aufs au_xino_trunc:267:mount[36
Oct 26 06:25:05 plum kernel: [11634.697147] aufs au_xino_trunc:299:mount[36
Oct 26 06:25:48 plum sensor: +36.5 degree centigrade.
Oct 26 06:26:48 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:27:48 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:28:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:29:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:30:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:31:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:32:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:33:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:34:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:35:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:36:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:37:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:38:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:39:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
Oct 26 06:40:49 plum sensor: +36.0 degree centigrade.
```

ログ取得

ログファイル取得

# 第 11 章

---

---

ファームアップデート

## 11.1. ファームアップデート

### 第11章 ファームアップデート

## 11.1 ファームアップデート

#### ◆ ファームバージョン

現在使用中のファームウェアのバージョンを表示して確認することができます。



#### ◆ ファームアップデート

SpreadRouter 本体のファームウェアの更新を行います。

#### ➤ ファームウェアアップロード

パソコン上のファームウェアイメージファイルを、WebUI を経由して本装置に送信します。



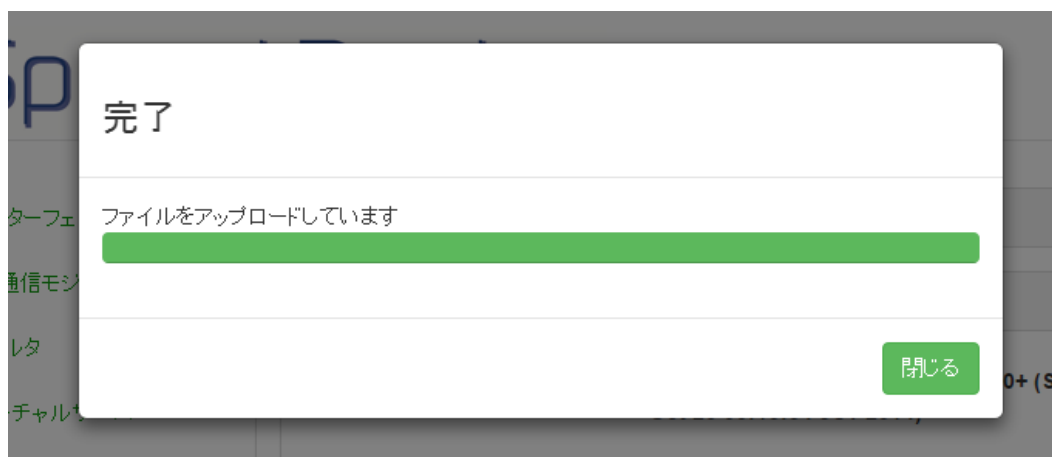
「設定」ボタンをクリックして更新するファームウェアを SpreadRouter 本体にアップロードします。



## 第11章 ファームアップデート

### 11.1 ファームアップデート

- ファームウェアアップロード完了  
ファームウェアアップロード完了後には、「完了」と表示されます。



- ファームウェアアップデート  
ファームウェアの送信に成功すると、ファイルサイズと MD5 値が表示されます。  
MD5 値が正しければ、「設定」をクリックし、ファームウェアのアップデートを実行します。



※ファームウェアは 60MB 以上のサイズがありますので、3G 経由の遠隔からの更新の場合、30 分～1 時間以上アップロードに時間が掛かる可能性があります。

また、3G 回線プランが従量制の場合、パケット超過になる可能性がありますので、更新の際には十分ご注意願います。

➤ ファームウェアアップデート完了

ファームウェアアップデート完了後には、「ファームアップが完了しました」と表示されます。

## 完了

---

ファームアップが完了しました



閉じる

➤ SpreadRouter 本体の再起動

『第 12 章停止・再起動』より、SpreadRouter 本体の再起動を実施します。

再起動後、ファームウェアが更新されていることを確認します。

# 第 12 章

---

---

停止・再起動

## 第12章 停止・再起動

### 12.1 停止・再起動設定

#### ◆ 即時停止・再起動

「停止」で SpreadRouter 本体をシャットダウンします。

「再起動」で SpreadRouter 本体の再起動を行います。

※「停止」または「再起動」により行われるシャットダウン処理により各設定情報が保存されます。

#### 即時停止・再起動

本体シャットダウン	停止
本体再起動	再起動

#### ◆ 定期リブート

1日に1回の定期リブートを行うかを設定します。

定期リブート「使用する」を選択し、再起動時間（0:00～23:00 ※1時間単位）を設定すると設定した時間に再起動を行います。

#### 定期リブート機能

定期リブート	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
リブート時刻	03:00 <input type="button" value="▼"/>
<input type="button" value="設定"/>	

※出荷設定は定期リブートを使用する設定です。長期運用にてご使用の場合は、定期リブート機能を使用することを推奨いたします。



# 第 13 章

---

---

日付・時刻

## 13.1 日付・時刻設定

### ◆ 日付・時刻設定

日付・時刻設定では、システム時刻の変更を行います。

「日付」の年、月、日および、「時刻」の時、分、秒の項目入力 completed した後「設定」ボタンをクリックして変更内容を更新させます。

日付・時刻設定

年	<input type="text" value="2014"/>	月	<input type="text" value="10"/>	日	<input type="text" value="27"/>
時	<input type="text" value="9"/>	分	<input type="text" value="56"/>	秒	<input type="text" value="2"/>

- 年 : 2000~2036 までの範囲で設定します。
- 月 : 1~12 までの範囲で設定します。
- 日 : 1~31 までの範囲で設定します。
- 時 : 0~23 までの範囲で設定します。
- 分 : 0~59 までの範囲で設定します。
- 秒 : 0~59 までの範囲で設定します。

尚、本体に内蔵されている時計用電池は通電無し状態で約5年間保持されます。

# 第 14 章

---

---

本装置設定

## 第14章 本装置設定

### 14.1 本装置設定

◆ パスワード変更

WebUI のログインパスワードを変更します。(半角英数記号 16 文字 ※使用可能記号は“'”以外)  
ユーザは「admin」固定で変更できません。

◆ WebUI アクセスポート変更

WebUI のポート番号を変更したい場合にポート番号 (1~65535) を指定します。設定は即時反映されますので、WebUI での設定を続けるには変更後のポートに再接続してください。

※使用中ポートは設定できません。

本体設定

設定画面のパスワード変更

新しいパスワード

Web設定画面ポート変更

設定画面ポート番号

※デフォルト使用中ポート一覧

TCP : 111 , 80 , 8080 , 4112 , 53 , 22

UDP : 53 , 67 , 111 , 123

その他、動的に割り当てられるポートもございますのでご注意ください。

<注意1>

「設定」ボタンを押下すると変更した設定は即時反映されますが、本体への保存は行われません。そのまま電源を抜くと設定した値は消えてしまいます。

設定した値を本体に保存する場合、WebUI の「停止・再起動」にて「本体再起動」または「本体シャットダウン」を行ってください。

<注意2>

WebUI 設定画面を 3G や WAN ポート側 (external ゾーン) からアクセスする場合は、設定した設定画面ポート番号をフィルタ設定で「Accept」してください。

SpreadRouter シリーズ ウェブユーザインターフェース操作マニュアル Ver.1.0.0

---

2014年12月版

発行 エヌエスティ・グローバルリスト株式会社

Copyright© 2014 NST GLOBALIST, INC. All rights reserved.

---